

福 祉

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。

福祉科においては、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養うため、現代社会と福祉について俯瞰しつつ、地域を学びのフィールドとして、様々な職業や年代の地域住民とつながりをもちながら、福祉に関する課題を科学的根拠に基づいて多面的・多角的に分析し、課題の解決策を検討する学習活動などが求められている。

このようなことから、実際の福祉活動に即した体験の中で発生する様々な課題に対して試行錯誤しながら課題を解決する探究的な学習活動を推進していく必要がある。

(2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

探究的な学習を取り入れた単元の評価については、評価場面や評価方法を工夫し、指導の改善や生徒の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすることが重要である。また、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することにより、教師が自らの指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切である。

探究的な学習を取り入れて授業を展開するには、生徒が教師からの評価を必要以上に意識せず、斬新な発想や新しいアイデアなどが生まれやすい環境で授業が展開されることが望ましいことから、学習評価については、単元や題材など内容や時間のまとまりごとに実施する「記録に残す評価」ばかりでなく、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かす「指導に生かす評価」を取り入れることが重要である。

また、ICTを活用して生徒の学習状況や理解度をリアルタイムで把握したり、日々の授業で学習記録を蓄積したりして授業改善を進めることも有効である。

ICTを活用することで、発言することへの抵抗感を軽減し、自分の考えを表出しやすい環境づくりにもつながる。

【過疎化がもたらす商店街の課題】

グループワークで理解できたことや、次回への目標などを整理してみよう。

4件の回答

経営の効率化や安定化などは難しかったが、イメージは理解できた。

人口が減ると、町の機能が成り立たなくなることに衝撃を受けた。

話が難しかったが、他の人の意見を聞くことで少し理解が進んだ。

なかなか話し合いに参加できなかったので、次は積極的に参加する。

学習支援ソフトを活用したワークシートの例

2 指導と評価の計画例

(1) 社会福祉基礎（2単位）の計画例

ア 単元〈社会福祉の理念と意義〉の目標

- ① 生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて理解するとともに関連する技術を身に付ける。
- ② 社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。
- ③ 社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている。</u>

単元の評価規準は、単元の目標の語尾を変換して作成する。

ウ 単元の指導と評価の計画（13時間）

時間	ねらい及び学習活動	知 思 態		
		知	思	態
1～7 生活と福祉	<p>ねらい：家族、地域社会、ライフスタイルの変容、健康の考え方や疾病構造の変化などを取り上げ、自立した生活と地域社会との関わり、少子高齢化の進行と介護の社会化、自助・互助・共助・公助に関する課題を発見し、統計資料などの根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。</p> <p>学習活動：教科書や他教科の学習内容、総務省の統計資料を基に、理解した内容を整理し、商店街でインタビューを行うなどして地域社会や生活の変化を考察するほか、国民の健康づくり、人の一生と社会福祉についてグループ協議やまとめた内容を発表する。</p>		○	○
8～11 社会福祉の理念	<p>ねらい：法令や地域共生社会、近年の国際的な福祉の考え方などを身に付けるとともに、自立生活支援や地域とつながる支援の在り方について、根拠に基づいて創造的に解決する。</p> <p>学習活動：教科書の内容を踏まえ、厚生労働省及び北海道障がい者条例のホームページ等、又はインターネットや新聞から理解した内容をレポートにする。</p>		○	○
12～13 人間の尊厳と自立	<p>ねらい：日本国憲法や世界人権宣言、障害者の権利宣言、国際障害者年、障害者の権利に関する条例などを取り上げ、権利擁護と人権尊重の視点を踏まえた人間の尊厳、自立の意味や自己決定の重要性、自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。</p> <p>学習活動：教科書の内容を踏まえ、グループ協議を通して、自立生活の意義を考察し、分かりやすく表現する。</p>		○	○

他教科（ここでは主に家庭及び保健体育）における学習で身に付けたライフスタイル及びヘルスプロモーションなど健康に関する内容（知識）と関連付けて扱う。

探究

[問い]
①過疎地域の商店街の課題は何か。
②解決方法として考えられることはどんなことか。

探究

[問い]
障がい者にとって宿泊施設の対応で課題となることはどんなことか。

他教科（ここでは公民）における学習で身に付けた人間の尊厳に関する知識を活用して、調べた情報を整理するなど教科等横断的な学習を展開する。

エ 学習指導案（科目「社会福祉基礎」 4時間目／13時間中）

・単元：社会福祉の理念と意義 生活と福祉 地域社会の変化

1 本時の目標

都市問題や過疎化、市町村合併について理解し、地域の課題について考察する。

【思考・判断・表現】

2 本時の展開

*前時はグループに分かれ、商店街で「商店街を維持するための課題について」街頭インタビューを実施

過程	学習内容	指導上の留意点	備考(評価規準・評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の課題「街頭インタビュー」について振り返り 評価方法について 	<ul style="list-style-type: none"> 「街頭インタビュー」で得られた課題を整理し、生徒へ示す。 本時の展開で考える解決方法は、根拠に基づいて考えることが大切であると伝える。 	 <p>前時終了時に提示したワークシート「街頭インタビュー」</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習 インタビューで聞き取った内容を踏まえ、その課題を発見する。 グループ学習 共通する課題について、解決方法を検討する。 一斉学習 解決方法の検討結果をグループごとに発表。 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューがうまくいかなかった生徒については、導入で整理した例を活用するよう促し、ワークが進められるように促す。 共通する課題がない場合は、優先順位を決めて時間がある限り解決方法を検討する。(学習支援ソフトを使用) 各グループの検討状況の学習支援ソフトをスクリーンに投影。各発表後に評価のコメントをする。 	 <p>本時のワークシート「商店街の課題とその解決方法」</p> <p>[評価規準] 地域の課題を発見し、根拠に基づいてその課題を解決する力が身に付けている。</p> <p>[評価方法] ワークシート</p> <p>[Point] 町や自治体、集落の世帯人口、高齢化率、市町村合併など、適宜必要な情報を検索する。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習 自己評価と他者評価を入力する 	<ul style="list-style-type: none"> 検討状況はスクリーンに投影したままとする。他者評価は、グループ学習（他者の考え）を踏まえ、新たに発見した考えについて記述（入力）するよう促す。 	

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

- ① 「前時の課題」の内容を基に、手立てが必要な生徒への対応を行うことができる。
- ② 学習支援ソフトによる全体共有によって、他者の考えに気付き、考えの変容を促すことができる。

カ 評価

「おおむね満足できる」状況(B)	「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て
過疎地域の商店街の課題を発見し、課題を解決しようとしている。	過疎地域の商店街の課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に課題を解決している。	商店街の現状について質問しながら、課題に気付くように支援する。

キ 評価結果のフィードバック（次回の導入時に実施）

ワークシートにコメントを付けて返却する等、評価Cとなった生徒への手立てを行う。

実践事例

ここでは、地域を学びのフィールドとする校外実習を取り入れ、障がいの理解につながる実践的な取組として、問題発見・解決能力を養うとともに、生徒が主体的に学ぶ場面を設定した科目「社会福祉基礎」の実践事例を次に示す。

◆科目「社会福祉基礎」における2単位時間（50分×2時間）の指導と評価の計画

過程	指導内容	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
1 本時の目標	(1) 視覚障がい者の生活上に存在する不便さや課題について思考する。【思考・判断・表現】 (2) 介助者として視覚障がい者の支援に必要なことに気づき、相手の立場に立った支援を考えようとする。【主体的に学習に取り組む態度】		
2 本時の展開	『見えない世界を体験して、社会生活上・日常生活上の課題と支援方法を考える。』 問い ①見えないことを体験して、生活にどのような影響があるか。 ②課題となることは何か。 ③必要となる声かけやサポートは何か。		
導入 (15分)	・視覚障がい者役はアイマスクを装着して、本時の学習に臨むことを理解する。	・本時の内容を提示・説明する。 ・必要物品を配付する。 ・安全に関わる注意事項を確認をする。 安全確保のため、地域のガイドヘルプ事業所等との連携が重要である。	
展開 (70分)	＜ペアワーク＞ ・視覚障がい者役と介助者役を決める。 ・地域のバス営業所まで徒歩で手引き誘導体験を行う。 【手順】 ・自校～営業所まで行き帰りの間、アイマスクを着け手引き誘導（「五感」を意識して体感する） ・バス営業所に到着後、停車バスの昇降支援・座席までの誘導・運賃箱での情報支援等、一連の流れを行う。（適宜役割を交代する） ※体調面に配慮し、途中で休憩をとる。	ペアごとの移動になるが、生徒数によっては教員の複数配置なども検討し、安全面に留意する必要がある。 ※役割を変えながら、全員が体験できるように配慮する。 ・ペアワークの様子を撮影し、本時の振り返り又は次時の導入で活用する。 ICT端末の活用  タブレットを用いて支援内容の様子を撮影しておくこと、学習の蓄積になり、学習評価に活用することができる。	 〔評価規準〕 ・自分なりの支援方法を見だし視覚障がい者の不便さや課題について考えることができているか。【思考・判断・表現】 〔評価方法〕 ペアワークを観察 〔評価規準〕 ・視覚障がい者の立場に立った支援を考えるように努力しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】  〔評価方法〕 視覚障がい者体験「①ワークシート」
まとめ (15分)	・次回の学習内容について確認する。	・本時の内容を踏まえた課題を提示し、次回の授業までに取り組むよう指示する。	・次回の学習につながる課題を提示し、提出された内容を活用する。 〔指導に生かす評価〕  視覚障がい者体験「②ワークシート」